

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.15.02/relnote_15_02_26.html

Revision : 15.02.26

Release : Sep. 2022, ヤマハ株式会社

RTX830 Rev.15.02.26 リリースノート

○ファームウェアのリビジョンアップを行う前に必ずお読みください

- Rev.15.02.03以降のファームウェアへリビジョンアップを行う際には以下の点にご注意ください

Rev.15.02.03では以下の変更をしています。

「RTX830 Rev.15.02.03 リリースノート」より、

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.15.02/relnote_15_02_03.html

[1] 本機にアクセスするときのセキュリティーを強化した。

(8) 工場出荷状態の設定にtelnetd host lanコマンドを追加した。

Rev.15.02.03以降のファームウェアを使用して工場出荷状態からプロバイダーを設定すると、上記のコマンドが設定されているため遠隔からTELNETでログインができなくなります。

遠隔からTELNETでログインをする場合はtelnetd hostコマンドの設定を変更してください。

- Rev.15.02.13以降のファームウェアへリビジョンアップを行う際には以下の点にご注意ください

「DPIを使用したアプリケーション制御機能」に対応したRev.15.02.13以降のファームウェアへ

リビジョンアップすると、Rev.15.02.10、またはそれ以前のファームウェアに対して工場出荷状態でのメモリー使用率が10%程度上昇します。

メモリーの空き容量が十分あることを確認のうえ、リビジョンアップを行うようにしてください。

ORTX830 Rev.15.02.20 からの変更点

(メーカーリリース版 Rev.15.02.22～25 を含む)

■脆弱性対応

[1] OpenSSLの以下の脆弱性対応を行った。

- CVE-2021-3712 (JNVU#99612123)

- CVE-2022-0778 (JNVU#90813125)

■機能追加

[1] VPN拡張ライセンスに対応した。

○拡張ライセンスのパスワードの設定

[書式]

ex-license password PASSWORD

no ex-license password [PASSWORD]

[設定値及び初期値]

・ PASSWORD

[設定値] : パスワード(半角8文字以上、64文字以内)

[初期値] :-

[説明]

拡張ライセンスを使用するためのパスワードを設定する。

本コマンドの設定の変更、または削除によりインポート済みのライセンスが復号できなくなる場合、設定を保存してルーターを再起動したあとにライセンスが無効になる。

○拡張ライセンスのインポート

[書式]

```
import ex-license key [KEY]
```

[設定値及び初期値]

- KEY

[設定値] : インポートするライセンスキー

[初期値] :-

[説明]

- 拡張ライセンスをインポートする。

ライセンスをインポートする前に `ex-license password` コマンドでパスワードを設定しておく必要がある。

KEY を省略した場合は、インポートするライセンスキーの入力を求められる。

このとき、インポートするライセンスの詳細が表示され、ライセンスのインポートを続行するか否かを選択することができる。KEY にインポートするライセンスキーの入力した場合は、インポートを続行するか否かは問われず、正常なライセンスであれば自動的にインポートされる。

インポートしたライセンスは RTFS の `/yamaha_sys/ex-license_vpn.lic` に保存される。yamaha_sys ディレクトリがない場合は自動生成される。

○拡張ライセンスの削除

[書式]

clear ex-license

[説明]

拡張ライセンスを削除する。

本コマンドを実行すると、削除するライセンスの詳細が表示され、ライセンスの削除を続行するか否かを選択することができる。ライセンスを削除するとルーターが再起動される。

○ライセンス情報の表示

[書式]

show status license

[説明]

LMS クライアントが取得したライセンス、および拡張ライセンスの情報を表示する。★
表示する項目は以下の通り。

品番 | ライセンス製品の品番。

-----+-----

状態 | ライセンスの状態。

-----+-----

有効期限 | ライセンスの有効期限。"年/月/日"形式で示す。

ライセンスの状態には以下の種類がある。

有効 (Active) | ・ LMS クライアントが取得したライセンス

| ライセンスが有効期限内であり、当該品番に対応するアプリケーションを使用できる状態。

| ・ 拡張ライセンス ★

| ライセンスが有効であり、当該品番に対応する機能が拡張が行われている状態。

-----+-----

更新猶予期間 (Renew | LMS クライアントが取得したライセンスでのみ表示さ
grace period) |れる。

|有効期限を過ぎている状態。この状態より一定期間経
|過すると対応するアプリケーションを使用できなくな
|るため、ライセンスの購入手続きが必要となる。

-----+-----
認証猶予期間 (| LMS クライアントが取得したライセンスでのみ表示さ
Authentication grace |れる。

period) |一時的にライセンス認証が猶予されている状態。

|ヤマハネットワーク機器が有効なライセンス情報を保
|持している状態で再起動し、その後 LMS サーバーと通
|信できない場合にこの状態となる。

|対応するアプリケーションを使用することはできるが、
|ディアクティベートまでの時間が経過するまでにライ
|センス認証を行う必要がある。ディアクティベートま
|での時間は show status license authentication コ
|マンドで確認することができる。

[ノート]

ライセンスを保持していない場合、あるいは LMS サーバーからライセンス情報を
取得していない場合、当コマンドを実行しても情報は表示されない。

[2] YNOエージェント機能で、XMPPサーバーとのキープアライブ通信の実行間隔を設定で
きるようにした。

○XMPPサーバーとのキープアライブの時間間隔の設定

[書式]

yno xmpp connection keepalive INTERVAL

no yno xmpp connection keepalive [INTERVAL]

[設定値及び初期値]

• INTERVAL

[設定値] : キープアライブパケットを送出する時間間隔 (30..300 秒)

[初期値] : 300

[説明]

XMPPサーバーとのキープアライブ通信を実施する時間間隔を設定する。

[3] Web GUIでfaviconを表示するようにした。

[4] L2MSで以下の機種に対応した。

- SWX2220-10NT

- SWX2221P-10NT

[5] LANマップで、以下の機能に対応した。

- 「このスイッチを探す」機能

- 端末監視に関する通知/履歴メッセージの表示

[6] ヘアピンNAT機能を追加した。

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/nat-descriptor/hairpin_nat.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[7] FQDNフィルター機能のIPv6対応を行った。

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/fqdn_filter/index.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

■仕様変更

[1] MTUが1280未満のICMPv6 Packet-Too-Bigメッセージを受信したとき、IPv6フラグメントヘッダーを付けずに応答するようにした。

[2] ipv6 rtadv sendコマンドに、prf_flagオプションを追加した。

○ルーター広告の送信の制御

[書式]

```
ipv6 INTERFACE rtadv send PREFIX_ID [PREFIX_ID...] [OPTION=VALUE...]
```

```
ipv6 pp rtadv send PREFIX_ID [PREFIX_ID...] [OPTION=VALUE...]
```

```
no ipv6 INTERFACE rtadv send [...]
```

```
no ipv6 pp rtadv send [...]
```

[設定値及び初期値]

- INTERFACE

[設定値] : LANインターフェース名

[初期値] :-

- PREFIX_ID

[設定値] : プレフィックス番号

[初期値] :-

- OPTION=VALUE : NAME=VALUEの列

[設定値] :

NAME	VALUE	説明
------	-------	----

m_flag	on、 off	managed address
--------	---------	-----------------

configurationフラグ。

ルーター広告による自動設定

とは別に、DHCP6に代表されるルーター広告以外の手段によるアドレス自動設定をホストに許可させるか否かの設定。

o_flag	on、off	other stateful configurationフラグ。ルーター広告以外の手段によりIPv6アドレス以外のオプション情報をホストに自動的に取得させるか否かの設定。
prf_flag	high、medium、low	Default Router Preferenceフラグ。ルーター広告の優先度を示す設定。★
max-rtr-adv-interval	秒数	ルーター広告を送信する最大間隔 (4-1,800秒)
min-rtr-adv-interval	秒数	ルーター広告を送信する最小間隔 (3-1,350秒)
adv-default-lifetime	秒数	ルーター広告によって設定される端末のデフォルト経路の有効時間 (0-9,000秒)
adv-reachable-time	ミリ秒数	ルーター広告を受信した端末が、ノード間で確認した到達性の有効時間 (0-3,600,000ミリ秒)
adv-retrans-time	ミリ秒数	ルーター広告を再送する間隔 (0-4,294,967,295ミリ秒)
adv-cur-hop-limit	ホップ数	ルーター広告の限界ホップ数 (0-255)
mtu	auto、off、バイト数	ルーター広告にMTUオプション

ンを含めるか否かと、含める
場合の値の設定。

autoの場合はインターフェー
スのMTUを採用する。

rdnss rdnss、off、dhcpv6 ルーター広告にRDNSSオプショ
ンを含めるか否かと、含める
場合の値の設定。
rdnssの場合はRAのRDNSSオプ
ションで割り当てられたサー
バー群を通知する。

[初期値] :

- m_flag = off
- o_flag = off
- prf_flag = medium ★
- max-rtr-adv-interval = 600
- min-rtr-adv-interval = 200
- adv-default-lifetime = 1800
- adv-reachable-time = 0
- adv-retrans-time = 0
- adv-cur-hop-limit = 64
- mtu = auto
- rdnss = rdnss

[説明]

インターフェースごとにルーター広告の送信を制御する。送信されるプレフィッ
クスとして、ipv6 prefixコマンドで設定されたものが用いられる。

また、オプションとしてm_flagおよびo_flagを利用して、管理するホストがルー
ター広告以外の自動設定情報をどのように解釈するかを設定することができる。

オプションでは、送信するルーター広告の送信間隔や、ルーター広告に含まれる情報の設定を行うこともできる。

[3] 以下のselectコマンドがエラーとなったとき、プロンプトがselectコマンドの対象を選択していない状態(none)に遷移するようにした。

- ap selectコマンド
- pp selectコマンド
- switch selectコマンド
- tunnel selectコマンド

[4] Web GUIの以下のページで表示される「ソフトウェアライセンス契約」の内容を更新した。

- 管理の[本体の設定]-[DOWNLOAD ボタンの設定]で「ネットワーク経由でファームウェアを更新する」を選択した後
- 管理の[保守]-[ファームウェアの更新]-[ネットワーク経由でファームウェアを更新]

[5] ipsec ike queue lengthコマンドで、設定できるキュー長の最小値と最大値、および初期値を変更した。

○受信した IKE パケットを蓄積するキューの長さの設定

[書式]

```
ipsec ike queue length LENGTH  
no ipsec ike queue length [LENGTH]
```

[設定値及び初期値]

- LENGTH
[設定値] : キュー長 (100 .. 200) ★
[初期値] : 200 ★

[説明]

受信した IKE パケットを蓄積するキューの長さを設定する。

この設定は、短時間に集中して IKE パケットを受信した際のルーターの振る舞

いを決定する。設定した値が大きいほど、IKE パケットが集中したときにより多くのパケットを取りこぼさないで処理することができるが、逆に IKE パケットがルーターに滞留する時間が長くなるためキープアライブの応答が遅れ、トンネルの障害を間違っって検出する可能性が増える。通常の運用では、この設定を変更する必要はないが、多数のトンネルを構成しており、多数の SA を同時に消す状況があるならば値を大きめに設定するとよい。

[ノート]

キューの長さを長くすると、一度に受信して処理できる IKE パケットの数を増やすことができる。しかし、あまり大きくすると、ルーター内部にたまった IKE パケットの処理が遅れ、対向のルーターでタイムアウトと検知されてしまう可能性が増える。そのため、このコマンドの設定を変更する時には、慎重に行う必要がある。

通常の運用では、この設定を変更する必要はない。

[6] FQDN フィルター機能の処理性能を改善した。

[7] 以下の用語を変更した。

- L2MS: マスター(Master)/スレーブ(Slave)→マネージャー(Manager)/エージェント (Agent)
- L2MS: 端末マスター→端末情報DB
- バックアップ経路: マスター経路→メイン経路
- URL フィルター: ブラックリスト(Black-list)/ホワイトリスト(White-list)→拒否リスト(Reject-list)/許可リスト(Pass-list)

ヤマハネットワーク製品における今回の用語変更の詳細については、以下の URL をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/notice/terms/terms-change.html>

[8] 以下のコマンドで、ルーター広告で配布するRDNSSオプションに任意のDNSサーバーアドレスを指定できるようにした。

- ipv6 nd ra-rdnssコマンド
- ipv6 rtadv sendコマンド

○ルーター広告で配布するRDNSSオプションの定義

[書式]

```
ipv6 nd ra-rdnss RDNSS_ID DNS_IPV6_ADDRESS [DNS_IPV6_ADDRESS...] [OPTION=VALUE]
no ipv6 nd ra-rdnss RDNSS_ID [...]
```

[設定値及び初期値]

- RDNSS_ID

[設定値] : RDNSSオプション番号 (1..21474836)

[初期値] : -

- DNS_IPV6_ADDRESS

[設定値] :

設定値	説明
-----	----

dhcpv6	DHCPv6で通知されたDNSサーバーのIPv6アドレス
--------	------------------------------

ipv6_address	任意のDNSサーバーのIPv6アドレス
--------------	---------------------

[初期値] : -

- OPTION=VALUE : NAME=VALUE の列

[設定値] :

NAME	VALUE	説明
------	-------	----

lifetime	秒数、infinity	DNSサーバーの有効時間 (0.4294967294 秒)
----------	-------------	-------------------------------

infinity はDNSサーバーを無期限で使用できることを示す。

[初期値] :

- lifetime = ipv6 rtadv sendコマンドのルーター広告を送信する最大間隔 (max-rtr-adv-interval) の3倍

[説明]

ルーター広告で配布するRDNSSオプションを定義する。実際に広告するためには、ipv6 rtadv send コマンドの RDNSSオプションの設定が必要である。
DNS_IPV6_ADDRESS は最大3つまで指定可能。

○ルーター広告の送信の制御

[書式]

```
ipv6 INTERFACE rtadv send PREFIX_ID [PREFIX_ID...] [OPTION=VALUE...]  
ipv6 pp rtadv send PREFIX_ID [PREFIX_ID...] [OPTION=VALUE...]  
no ipv6 INTERACE rtadv send [...]  
no ipv6 pp rtadv send [...]
```

[設定値及び初期値]

- INTERFACE

[設定値] : LAN インターフェース名

[初期値] : -

- PREFIX_ID

[設定値] : プレフィックス番号

[初期値] : -

- OPTION=VALUE : NAME=VALUE の列

[設定値] :

NAME	VALUE	説明

m_flag	on、off	managed address configurationフラグ。 ルーター広告による自動設定 とは別に、DHCP6に代表され るルーター広告以外の手段に よるアドレス自動設定をホス トに許可させるか否かの設定。
o_flag	on、off	other stateful configurationフラグ。 ルーター広告以外の手段によ りIPv6アドレス以外のオプショ ン情報をホストに自動的に取 得させるか否かの設定。
prf_flag	high、medium、low	Default Router Preference フラグ。ルーター広告の優先 度を示す設定。
max-rtr-adv-interval	秒数	ルーター広告を送信する最大 間隔 (4-1,800秒)
min-rtr-adv-interval	秒数	ルーター広告を送信する最小 間隔 (3-1,350秒)
adv-default-lifetime	秒数	ルーター広告によって設定さ れる端末のデフォルト経路の 有効時間 (0-9,000秒)
adv-reachable-time	ミリ秒数	ルーター広告を受信した端末 が、ノード間で確認した到達 性の有効時間 (0-3,600,000 ミリ秒)
adv-retrans-time	ミリ秒数	ルーター広告を再送する間隔 (0-4,294,967,295ミリ秒)

adv-cur-hop-limit	ホップ数	ルーター広告の限界ホップ数 (0-255)
mtu	auto、off、バイト数	ルーター広告にMTUオプションを含めるか否かと、含める場合の値の設定。 autoの場合はインターフェースのMTUを採用する。
rdnss	rdnss、off、dhcpv6 RDNSSオプション番号★	ルーター広告にRDNSSオプションを含めるか否かと、含める場合の値の設定。 rdnssの場合はRAのRDNSSオプションで割り当てられたサーバー群を通知する。

[初期値] :

- m_flag = off
- o_flag = off
- prf_flag = medium
- max-rtr-adv-interval = 600
- min-rtr-adv-interval = 200
- adv-default-lifetime = 1800
- adv-reachable-time = 0
- adv-retrans-time = 0
- adv-cur-hop-limit = 64
- mtu = auto
- rdnss = rdnss

[説明]

インターフェースごとにルーター広告の送信を制御する。送信されるプレフィックスとして、ipv6 prefix コマンドで設定されたものが用いられる。

また、オプションとして m_flag および o_flag を利用して、管理するホストがルーター広告以外の自動設定情報をどのように解釈するかを設定することができる。オプションでは、送信するルーター広告の送信間隔や、ルーター広告に含まれる情報の設定を行うこともできる。

[9] Web GUIの以下のページで、ヤマハWebサイト上のソフトウェアライセンス利用規約の内容を外部リンクで開くようにした。

- 管理の[本体の設定]-[DOWNLOAD ボタンの設定]で「ネットワーク経由でファームウェアを更新する」を選択した後
- 管理の[保守]-[ファームウェアの更新]-[ネットワーク経由でファームウェアを更新]

[10] Web GUIの以下のページで、IPv6 IPoE接続の設定の注意事項を記載した。

- かんたん設定の[プロバイダー接続]-[プロバイダー情報の設定]
- 詳細設定の[プロバイダー接続]-[基本設定]

■バグ修正

[1] OSPFv3のパケットを受信したとき、リブートすることがあるバグを修正した。

[2] YNOエージェント機能で、YNOマネージャーに接続しているときリブートする可能性を排除した。

ただし、この問題が実機上で発現することは確認できていない。

[3] VRRPで、シャットダウントリガーによりマスタールーターが切り替わるとリブートすることがあるバグを修正した。

[4] マルチポイントトンネル機能で、OSPFによる経路交換を行っているとき、トンネルのアップダウンにより動的にインターフェースの追加・削除が行われると、その後リブートすることがある可能性を排除した。

ただし、実機上でこの現象が発現することは確認できていない。

[5] ファストパスで、L2TPv3-raw over IPIPの通信をしたとき、リブートすることがあるバグを修正した。

[6] モバイルインターネット接続機能で、WANインターフェースで通信中にリブートする可能性を排除した。

ただし、実機上でこの現象が発現することは確認できていない。

[7] リモートアクセスVPN機能で、クライアント側のIPアドレスをDHCPで割り当てる設定のとき、dhcp scope bindコマンドで割り当てるIPアドレスを指定しない設定があると、リブートするバグを修正した。

[8] 起動した直後に、コンソールから以下のコマンドを実行するとリブートすることがあるバグを修正した。

- clear dns cacheコマンド

- dns cache use offコマンド

- dns cache max entryコマンド

- tunnel endpoint nameコマンドでFQDNを指定したIPIPトンネルインターフェースに対して

- no tunel encapsulationコマンド

- no tunnel endpoint nameコマンド

[9] ngn typeコマンドをnttに設定したインターフェースで、不正な長さを指定したClassless Static Route Optionを持つDHCP ACKを受信したとき、リブートすること

があるバグを修正した。

[10] Web GUIのLANマップの[機器一覧]で、消失したスレーブ情報を削除したときリブートすることがあるバグを修正した。

Rev.15.02.19以降で発生する。

[11] 以下のタイミングでメモリーリークが発生するバグを修正した。

- ip filter dynamicコマンドで始点、または終点アドレスにFQDNを設定したとき
- ip filterコマンド、ip filter dynamicコマンドで始点、または終点アドレスにFQDNを設定し、アドレス以外のパラメーターでエラーになったとき
- queue class filterコマンドで始点、または終点アドレスにFQDNを設定したとき
- queue class filterコマンドで始点、または終点アドレスにFQDNを設定し、アドレス以外のパラメーターでエラーになったとき
- queue class filterコマンドでip dpiを設定し、始点、または終点アドレスにFQDNを設定したとき

[12] クラウドサービスとのVPN接続設定機能を使用してAmazon VPCと接続できないバグを修正した。

なお、この問題はAmazon VPC側の仕様変更によって発生するようになっていた。

[13] YNOエージェント機能で、外部メモリー内のCONFIGで起動しているとき、退避ファイルの設定がデフォルトの場合、ゼロコンフィグ機能が失敗するバグを修正した。

[14] YNOのゼロコンフィグ機能で、CONFIGの自動適用がタイムアウトしたとき、YNOのGUI上で以下の項目が誤表示される可能性を排除した。

- [ゼロコンフィグ]-[CONFIG一覧]-[機器情報]のCONFIG適用結果およびコマンド実行結果

[15] マルチポイントトンネル機能で、接続済みトンネルのSAポリシー定義

(ipsec sa policyコマンド)を再設定すると、トンネルが二重に接続され、トンネル通信ができなくなるバグを修正した。

[16] L2TPv3を用いたL2VPNで、接続先をドメイン名で指定しているとき、接続処理の開始後にドメイン名のIPアドレスが変更されると接続できないバグを修正した。

[17] IPv6で、上位層ヘッダーがないフラグメントパケットを受信したときの以下のバグを修正した。

- 該当パケットを破棄しない
- ICMPv6 Parameter Problem/パケットを返信しない

[18] クラウドサービスとのVPN接続設定機能で、MAP-Eトンネルなどのトンネルインターフェースを経由してAmazon VPCの設定をすると、コマンドの作成に失敗してAmazon VPCとVPN接続できないバグを修正した。

[19] RAプロキシで、IPv6 IPoE接続中のルーターを外してその回線に別のルーターを繋ぎ変えたとき、別のルーターですぐにIPv6 IPoE接続ができないバグを修正した。

[20] IPv6で、フラグメントされた近隣探索パケットを受信したとき、破棄せずに処理していたバグを修正した。

[21] ファストパスで、ip tos supersedeコマンドの設定値によるtosフィールドの書き換えが行われない事があるバグを修正した。

IPヘッダーのサービスタイプが設定値と同じパケットによってファストパスのフローが作られたとき、そのフローを利用するがサービスタイプが違うパケットについて書き換えが行われていなかった。

[22] データコネクトリモートセットアップ機能で、接続が1分で切れることがあるバグを修正した。

[23] FQDNフィルター機能で、FQDNを完全一致条件で指定しても後方一致条件で判定されることがあるバグを修正した。

[24] 以下のサービスで、DHCPv6-PDでLAN分割機能を使用しているとき、IPv6アドレスが不正に更新されてしまい、通信が切断されるバグを修正した。

- 「v6プラス」 IPv6/IPv4インターネットサービス
- OCNバーチャルコネクト

[25] リモートアクセスVPN接続で、pp auth usernameコマンドでIPアドレスを指定したユーザー名で接続できないことがあるバグを修正した。

Rev.15.02.20以降で発生する。

[26] DPIで、フラグメントパケットを識別できないバグを修正した。

Rev.15.02.15以降で発生する。

[27] 動的フィルターで、PINGとPING6のセッション終了時に出力されるSYSLOGのIDが0と表示されるバグを修正した。

[28] PPTP接続で、LAN1をブリッジインターフェースに収容しているとき、通信ができないバグを修正した。

[29] トリガによるメール通知機能で、SMTPSを指定するとメール通知に失敗することがあるバグを修正した。

[30] モバイルインターネット接続やPPPoE接続中に、以下の手段で設定を変更したとき、接続できなくなるバグを修正した。

- clear configurationコマンドを含むCONFIGをTFTPでPUTする
- loadコマンドを実行する
- YNOゼロコンフィグ機能を使用する

[31] PP2インターフェース以降のPPインターフェースに対して以下のコマンドを設定したとき、ルーターを再起動しないとコマンドの設定が反映されないバグを修正した。

- ip pp mtuコマンド
- no ip pp mtuコマンド

[32] TUNNEL2インターフェース以降のTUNNELインターフェースに対して以下のコマンドを設定したとき、ルーターを再起動しないとコマンドの設定が反映されないバグを修正した。

- ip tunnel mtuコマンド
- no ip tunnel mtuコマンド

[33] ip reassembly hold-timeコマンドを設定したとき、MIB変数ipReasmTimeoutに反映されないバグを修正した。

[34] dhcp scopeコマンドで、既存のコマンドと重複するスコープを設定したとき、エラーと表示するが有効な設定として動作してしまうことがあるバグを修正した。

Rev.15.02.08以降で発生する。

[35] wol sendコマンドを実行したとき、Wake On Lan/パケットがディレクテッドブロードキャストアドレスではなくリミテッドブロードキャストアドレスへ送信されてしまうバグを修正した。

[36] dhcp manual leaseコマンドでリース情報を追加したとき、不正なリース情報が設

定されてしまうバグを修正した。

[37] 以下のコマンドで、始点/終点アドレスにハイフンを含むFQDNを設定すると、正しく設定されないバグを修正した。

- ip dpi filterコマンド
- ip filterコマンド
- ip filter dynamicコマンド
- tcp logコマンド
- queue class filterコマンド

[38] 以下のコマンドで、IPIPトンネルのトンネル端点にホスト名を指定している場合、トンネル切断時に無関係なDNSキャッシュが削除されるバグを修正した。

- tunnel endpoint nameコマンド
- tunnel endpoint remote addressコマンド
- tunnel endpoint local addressコマンド

[39] show configコマンドで、ipv6 prefixコマンドのオプションの表示順が正しくないバグを修正した。

[40] remote setup acceptコマンドで、tel_numパラメーターに不正な値を入力したとき、当該コマンドが削除されるバグを修正した。

[41] 大量のdhcp scopeコマンドを設定して起動すると、dhcp scopeコマンドが削除できないことがあるバグを修正した。

[42] PPTP接続で、pp always-onコマンドがonに設定されていても常時接続にならないバグを修正した。

[43] Web GUI詳細設定の[セキュリティー]-[IPフィルター]のインターフェースの一覧で、

一般ユーザーでログインしたとき、「IPv6」の表示に切り替えられないバグを修正した。

[44] Web GUIの詳細設定の[IPアドレス]-[IPv4アドレスの設定]の確認画面で、不正なメッセージが表示されることがあるバグを修正した。

[45] Web GUIの詳細設定の[DNSサーバー]で、「中継先DNSサーバーの一覧」の「問い合わせの内容」の設定内容のツールチップを表示すると、画面遷移ができなくなるこ
とがあるバグを修正した。

[46] Web GUIのダッシュボードの[Live]-[インターフェース情報]ガジェットで、画面分
離中に表示するインターフェースを変更すると、ダッシュボードの[Live]に表示さ
れるガジェットの配置が初期状態になるバグを修正した。

Rev.15.02.10以降で発生する。

[47] Web GUIのLANマップで、SWX2100シリーズの「スイッチの設定表示と保守」ダイア
ログを開いたとき、「ポートの動作」の説明に「使用しない」と表示されるバグを
修正した。

[48] Web GUIのLANマップで、LANマップから制御できない未対応のスレーブに接続され
ている端末が表示されないことがあるバグを修正した。

[49] Web GUIの詳細設定の以下のページで、IPフィルターの送信元アドレス、宛先アド
レスにmap-eを設定できないバグを修正した。

- [セキュリティ]-[IPフィルター]-[適用されているIPv4フィルターの一覧]-[イン
ターフェースへの適用の設定]-[静的フィルターの設定]

- [セキュリティ]-[IPフィルター]-[適用されているIPv4フィルターの一覧]-[イン
ターフェースへの適用の設定]-[動的フィルターの設定]

- [セキュリティ]-[IPフィルター]-[適用されているIPv6フィルターの一覧]-[インターフェースへの適用の設定]-[静的フィルターの設定]
- [セキュリティ]-[IPフィルター]-[適用されているIPv6フィルターの一覧]-[インターフェースへの適用の設定]-[動的フィルターの設定]
- [ルーティング]-[静的ルーティングの設定]-[フィルター型ルーティングの設定]-[フィルター型ルーティング用フィルターの設定]

[50] Web GUIの詳細設定の以下のページで、送信元/宛先アドレスにハイフンを含むFQDNを設定すると、正しく設定されないバグを修正した。

- 詳細設定の[セキュリティ]-[IPフィルター]-[適用されているIPv4フィルターの一覧]-[インターフェースへの適用の設定]-[静的フィルターの設定]
- 詳細設定の[セキュリティ]-[IPフィルター]-[適用されているIPv4フィルターの一覧]-[インターフェースへの適用の設定]-[動的フィルターの設定]
- 詳細設定の[ルーティング]-[静的ルーティングの設定]-[フィルター型ルーティングの設定]-[フィルター型ルーティング用フィルターの設定]

[51] Web GUIの詳細設定の[ルーティング]-[静的ルーティングの設定]-[フィルター型ルーティングの設定]で、フィルター型ルーティング用フィルターの設定を変更できないバグを修正した。

Rev.15.02.15以降で発生する。

[52] Web GUIの以下のヘルプページで、誤記を修正した。

- [全般]-[はじめに]
- [全般]-[ログイン・ログアウト]
- [全般]-[各画面について]

[53] USBポートで、データ通信端末の抜き差しを繰り返すとリブートすることがあるバグを修正した。

[54] 以下のコマンドを実行したときに、リブートすることがあるバグを修正した。

ただし、この問題が実機上で発現することは確認できていない。

- clear dpi cache

- clear dpi statistics

[55] ipv6 routeコマンドで、不正なIPv6アドレスを設定したとき、リブートすることがあるバグを修正した。

[56] Web GUIのダッシュボードのNATセッション数ガジェットで、「ピーク値のクリア」をクリックするとリブートすることがあるバグを修正した。

[57] mail notifyコマンドで、trigger routeキーワードを指定したときにメモリーリークが発生することがあるバグを修正した。

[58] 動的フィルター機能で、拡張パッシブモード(EPSV)で動作するFTP通信のパケットを正常に通過させられないことがあるバグを修正した。

[59] SNMPで、LAN分割設定時に送信カウンターの値が正しく表示されないバグを修正した。

[60] UTXファームウェアがR80.20.35以降の場合、UTXセキュリティーガジェットが使用できなくなるバグを修正した。

[61] IPマスカレード機能で、PPTPの通信パケットとは認識されないGREパケットにポート番号が割り当てられることがあるバグを修正した。

[62] IPv6で、ICMPv6 Time Exceededパケットを送信しないことがあるバグを修正した。

[63] SNMPで、LAN分割設定時にファストパスによる通信時の送信カウンターと受信カウンターのオクテット数が正しくないことがあるバグを修正した。

[64] ルーター宛のIPv4フラグメントパケットの一部を一定時間内に受信できなかったとき、ICMP Time Exceededパケットを送信しないバグを修正した。

[65] SYSLOG機能で、SYSLOGホストにATコマンドログを送信しないバグを修正した。

Rev.15.02.20以降で発生する。

[66] SSHサーバー機能で、通信終了時の終了ステータスとして常に1を送信するバグを修正した。

Rev.15.02.10以降で発生する。

[67] bgp neighborコマンドで、gatewayパラメーターにPPインターフェースまたはTUNNELインターフェースを指定しているとき、当該インターフェースが一旦リンクダウンすると、再度リンクアップしてもネイバー関係を確立できなくなる可能性があるバグを修正した。

[68] 以下のコマンドで、ユーザー名に空の文字列が設定できてしまうバグを修正した。

- httpd custom-gui user
- import sshd authorized-keys
- login user
- show sshd authorized-keys
- sshd authorized-keys filename
- user attribute

[69] セキュリティー対策ソフトがインストールされているPCでWeb GUIを開こうとした

ときに、正常に画面が表示されないことがあるバグを修正した。

[70] Web GUIの以下のページで、OCNバーチャルコネクトサービス 固定IP1契約のプロバイダー接続の設定をすると、リナンバリングが発生したとき、それ以降IPoEの通信ができなくなるバグを修正した。

- かんたん設定の[プロバイダー接続]
- 詳細設定の[プロバイダー接続]

バグ修正を適用するためには、ファームウェアを更新後、上記のページにて再度設定をしてください。

[71] Web GUIのLANマップで、HTTPプロキシ経由でエージェント機器のGUIを開こうとしたときに、通信エラーが発生して開かないことがあるバグを修正した。

[72] Web GUIの以下のページで、誤記を修正した。

- かんたん設定の[プロバイダー接続]

[73] コマンドヘルプの誤記を修正した。

[74] DNSリカーシブサーバー機能で、DNSクエリーに以下が含まれているときにリブートすることがあるバグを修正した。

- Punycodeで変換されていないマルチバイトのドメイン名
- 空のドメイン名

Rev.15.02.24 で発生する。

[75] 特定の筐体でRev.15.02.20以前のファームウェアへリビジョンダウンできないバグを修正した。

対象となるRTX830のシリアル番号（製造年月）

- M5B363184 (2022年3月製造) ~

- S5B001001 (2022年4月製造) ~

Rev.15.02.22以降で発生する。

上記のシリアル番号のRTX830で Rev.15.02.22~Rev.15.02.25 を使用している際に、
Rev.15.02.20以前へリビジョンダウンしたい場合は、一旦、Rev.15.02.26へリビジョン
アップした後にリビジョンダウンしてください。

■更新履歴

Jan. 2022, Rev.15.02.22 リリース

Apr. 2022, 機能追加[4]、[5] 追加

Apr. 2022, Rev.15.02.24 リリース

Apr. 2022, 脆弱性対応[1] 追加

May. 2022, Rev.15.02.25 リリース

Sep. 2022, Rev.15.02.26 リリース

以上